

村田きょうこ マンスリーレポート

<2026年1月号>



皆さま、ご安全に！村田きょうこです。

新年あけまして、おめでとうございます。2026年が皆様にとって良い年になることを祈念いたします。

通常国会が1月23日に召集されることになりました。一般会計総額が史上最高の112.3兆円となる令和8年度予算案の中身はどうか、いまだに下がり続ける実質賃金をどうやって引き上げていくのかなど、予算委員会委員として国会の中で追及していきます。

1. 第219臨時国会が閉会しました

10月21日から58日間にわたって開かれてきた臨時国会が、12月17日に閉会しました。参議院選挙での自民党の議席数減、憲政史上初の女性総理大臣の誕生、公明党の連立政権からの離脱、それに代わり維新の会が閣外協力で連立に加わるなど、激変する政治情勢の下で行われた今回の臨時国会では、皆さんの生活に関する政策でも大きな変化がありました。

- ・ガソリン税、軽油引取税：暫定税率(当分の間の税率)が廃止 **導入から51年**
- ・自動車、自転車利用者への通勤手当：非課税限度額の見直し **11年ぶりの引き上げ**
- ・食事補助：12月26日の閣議決定で非課税限度額が見直し予定 **42年ぶりの引き上げ**

何年も変わらなかったことが一気に見直された最大の要因は、衆参両院で与党が過半数割れし、野党が掲げる政策を聞き入れざるを得なくなったためです。会期の終盤になって、自民党は無所属議員などを会派*に引き入れたことで、衆議院では過半数を確保することになりましたが、参議院では与党は過半数以下のままです。

引き続き皆さんの声を実現していくために、活動してまいります。

会派とは：国会内で活動を共にする議員グループのことで、2人以上の議員で結成される。質問時間の配分や委員会のポストは、政党ではなく、この「会派の人数」で決まる。

2. 補正予算、「責任ある内容」につなげられるか？

臨時国会では、2025年度の補正予算も成立しました。総額18.3兆円に及ぶ一般会計の主な内容は以下の通りです。

<補正予算3つの柱>

カテゴリー	予算額	主な内容
物価高・生活支援	8.9兆円	・電気、ガス代支援：冬の暖房需要への補助金 ・食料品支援：「お米券」、電子クーポンなど ・医療、介護支援：施設の経営改善、従業員の処遇改善 ・高校無償化：所得制限の緩和等の基金
危機管理・成長支援	6.4兆円	・AI、半導体、宇宙：次世代産業への直接投資 ・国土強靱化：災害に強いインフラ整備 ・能登復興：地震被害からの復興加速
防衛・外交強化	1.7兆円	・防衛力整備：防衛予算の前倒し執行 ・米国関税対策：日米戦略的投資支援



このうち、約11.7兆円は新規国債の発行で賄われる内容となっています。将来の日本を支える産業への支援や、物価高に苦しむ医療や介護現場への直接的な支援などは評価に値しますが、歳出の64%を借金に頼る仕組みには大いに疑問を感じます。すでに長期金利は上昇基調に転じており、この先の利払い増による国の財政悪化が懸念されます。

高市総理は、就任当初から「責任ある積極財政」を掲げていますが、今回の補正予算を将来の確実な成長へとつなげることで、初めて「責任ある」ものになります。「無責任な」将来へのしわ寄せにならないよう、予算の執行状況等を注視していきます。



3.大臣要請ラッシュの12月末

臨時国会が閉会してからは、大臣や副大臣要請が目白押しでした。とくに18日は、基幹労連の政策要請への帯同のほか、党の消費者部会の対応も重なり、霞ヶ関と議員会館を行ったり来たりの日でした。なかでも防衛大臣への要請は、私が柳田議員の秘書だった時以来、久々のことでしたので、実現することができとてもうれしいです。小泉大臣に直接交渉してくれた山岡達丸議員には感謝、感謝です。

国政フォーラム議員のありがたさを、あらためて感じました。

12月 1日 石原環境大臣(基幹労連)

12月 18日 赤澤経済産業大臣(基幹労連)、小泉防衛大臣(基幹労連)、津島内閣府副大臣(党消費者部会)、林厚生労働省審議官(党消費者部会)

12月 22日 松本文部科学大臣(基幹労連)



塩村あやか部会長ほか部会メンバーと津島内閣府副大臣に要請



基幹労連津村委員長、国政フォーラム議員と小泉防衛大臣に要請



4.12月の国会見学 8組170名!

寒くなりましたが、今回も多くの方が訪問くださいました。今年もどしどし見学を申し込んでくださいね。



三菱重工労組



川崎重工労組関東支部



JAM 東京千葉



日鉄建材労組



旭テックメタル労組



日鉄テックスエンジ労連



メタルアート労組



三井金属労連

以上